

|   |  |
|---|--|
| <b>ベンジルアミノプリン液剤</b><br><b>ビーエー液剤</b>    | <b>取扱メーカー：</b><br>クミカ、琉産<br><br><b>原体メーカー：</b><br>興人                               |
| <b>成分：</b> ベンジルアミノプリン〔サイトカニン剤〕……………3.0% | <b>性状：</b> 淡黄色澄明水溶性液体<br><br><b>毒性：</b> 普通物<br><b>消防法：</b> 第4類・第3石油類（非水溶性）・危険等級III |

### 【品目特性】……………

- 温州みかん：新梢発生促進，着花促進（ハウス栽培）に効果がある。
- ぶどう：花振り防止に効果がある。無種子化処理の第1回ジベレリン処理時期の早期への拡大が可能になる。
- りんご：苗木や高接1年枝の側芽の発生を促進し，側枝の形成を早める。
- おうとう（苗木）：副梢の発生を促進する。
- アスパラガス：萌芽を促進するので，夏秋どり栽培に効果的である。
- きく：側枝への脇芽の着生を促進するので，二度切り栽培が可能になる。
- 有効成分の特性は参考資料の「有効成分特性一覧表」を参照。

### 【使用上のポイント】……………

#### 〈温州みかん〉

- 樹勢の弱い樹では散布により，効果が現われてもその後，新梢，花，幼果が脱落することがあるので，このような樹には使用しない。
- 加温ハウス栽培園で新梢発生促進に使用する場合，散布から加温までの期間が短いと，結果母枝の充実までに至らず，着花が減少することがあるので，収穫，剪定後できるだけ早い時期に使用する。

#### 〈ぶどう〉

- 花振り防止に使用する場合は，常に花振りが発生する園のみに使用する。ハウス初年度の木には使用しない。
- 無種子化処理の第1回ジベレリン処理液に混用して処理時期を拡大する場合，ジベレリン単用での処理適期より3～4日早くから処理できる。
- ジベレリン処理液に添加した際，よく攪拌し

て使用する。

- 上記注意のほか使用に当たっては，ジベレリンの使用上の注意を厳守する。

#### 〈りんご〉

- 新梢が十分濡れるように散布する。
- 摘芯を行うとより効果的である。
- 作用が出にくい品種，つがる，王林等では，所定濃度の高濃度で使用する。

### 【効果・薬害等の注意】……………

- 調製した薬液は放置すると効果が低下するので，調製当日に使いきる。また，調製液は日陰に置く。
- 他の農薬との混用はさける（ジベレリンに添加し，ぶどうに使用する場合を除く）。

#### 〈温州みかん〉

- ボルドー液，塩基性塩化銅などの無機銅剤との近接散布は本剤の効果を低下させるおそれがあるのでさける。

#### 〈ぶどう〉

- 所定の処理時期から遅れて処理すると着粒過多になったり，果粉の付着や果房の着色が悪くなるおそれがあるので必ず適期に所定濃度で処理する。また，処理適期がすぎたものには，使用しない。

#### 〈りんご〉

- 新たに伸長した新梢部に散布して側芽発生促進を行う場合，品種，使用地域によって使用回数，効果，薬害が異なることがあるので，地域指導機関の指導を必ず受ける。
- 苗木に使用する場合は，食用には供さない。

#### 〈なし(栽培育成時の非収穫年樹)〉

- 側芽の発生を促進させ早期成園化させる目的であるため，非収穫年の苗木植付後の育成時に使用する。
- 処理後に結実した果実は，適切に廃棄処理し，

食用に供しない。

〈おうとう(苗木)〉

- 未結果樹で使用する。
- 葉に褐斑を生じる場合があるが、その後の生育には影響ない。
- 食用には供さない。

〈アスパラガス〉

- 若茎にかかるとう奇形を生じることがあるので茎葉下部への散布は控える。

〈きく〉

- 無側枝性が強く発現する品種及び高温期の栽培では効果が劣る場合がある。

〈こちょうらん〉

- 第7花の発蕾以降に花茎の先端部に7～10日間隔で噴霧する。
- 増やしたい花数に応じて使用回数の範囲で使用回数を増やす。
- 処理により花数が増えると、花の大きさがやや小さくなる傾向があるため注意する。

〈カーネーション〉

- カーネーションに使用する場合には、次の注意を守る。

- 側芽の発生を促す節位を中心に散布する。
- 同一節位への本剤の連続散布は、側枝発生過多、黄変、草丈抑制等の葉害を生じる場合があるのでさける。
- 高温時に散布すると、葉に黄変、褐変等の葉害を生じる場合があるので、注意する。
- 品種、栽培条件によって、葉害を生じる場合があるので、予め安全を確認の上使用する。

【安全対策上の注意】 .....

- 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにする。



# 【適用と使用方法】 .....

| 作物名   | 適用場所                    | 使用目的                                     | 希釈<br>倍数        | 使用<br>液量               | 使用時期  | 本剤の<br>使用回数 | 使用方法  | ベンジルアミノプリンを<br>含む農薬の総使用回数   |
|---|-------------------------|--|-----------------|------------------------|---|-------------|---|---|
| りんご<br>(苗木)   | —                       | 側芽発生<br>促進                               | 50～<br>100 倍    | 5～10 $ml$ /<br>苗木      | 新梢伸長時   | 10 回<br>以内  | 新たに伸長した<br>新梢部に散布                                     | 10 回以内<br>(立木全面散布<br>は 1 回以内)   |
| りんご   |                         | 高接 1 年枝<br>側芽発生促進                        |                 | 100～400<br>$\ell$ /10a |   |             | 伸長旺盛期<br>(6 月上旬以降)                                    | 立木<br>全面散布  |
| なし<br>(栽培育成時の<br>非収穫年樹)   |                         | 側芽発生<br>促進                               | 30 倍            | 3 $ml$ / 側芽            | 側芽発生時   |             | 発芽部位に<br>噴霧   |   |
| ぶどう<br>(デラウェア)  | ハウス栽培の<br>花振り発生園        | 花振り防止                                    | 300 倍           | —                      | 満開予定日の<br>14～17 日前                                  | 1 回         | ジベレリン<br>処理の第 1<br>回処理液に<br>添加して蕾<br>(果房)を浸<br>漬処理する。 |   |
| ぶどう<br>〔マスカット・<br>ベリー A、旅<br>路(紅塩谷)、<br>バッファロー<br>(アーリース<br>チューベン)〕 | 露地栽培園                   | 無種子化処理の<br>第 1 回ジベレリ<br>ン処理時期の早<br>期への拡大 |                 |                        | 満開予定日の<br>11～14 日前                                  |             |   |   |
|   | 露地栽培の<br>花振り発生園         | 花振り防止                                    |                 |                        |   |             |   |   |
|   | ハウス等施設<br>栽培の花振り<br>発生園 |  |                 |                        |   |             |   |   |
| 温州<br>みかん   | 露地栽培・<br>加温ハウス<br>栽培園   | 新梢発生<br>促進                               | 100～<br>200 倍   | 200～700<br>$\ell$ /10a | 萌芽直前～萌<br>芽期 (加温ハ<br>ウス栽培園で<br>は収穫後)                |             | 緑枝部へ<br>散布  | 2 回以内<br>(萌芽直前～萌芽期<br>(加温ハウス栽培園<br>では収穫後)は 1 回<br>以内、早期加温ハウ<br>ス栽培園での加温直<br>後は 1 回以内) |
|   | 早期加温ハ<br>ウス栽培園          | 着花促進                                     | 100～<br>400 倍   |                        | 加温直後  |             | 散布  |   |
| おうとう<br>(苗木)  | —                       | 副梢発生<br>促進                               | 25～<br>50 倍     | 200～800<br>$ml$ /苗木    | 新梢伸長時<br>(主幹延長枝の<br>30～80 cm<br>伸長期)                | 6 回<br>以内   | 立木<br>全面散布  | 1 回   |
| アスパラガス  |                         | 萌芽促進                                     | 300～<br>600 倍   | 100～300<br>$\ell$ /10a | 夏秋どり、慣行<br>最終収穫予定日<br>の 10～30 日前<br>(但し、収穫前<br>日まで) |             | 茎葉散布  |   |
| きく  |                         | 親株栽培におけ<br>る側枝への腋芽<br>の着生促進              | 2000～<br>4000 倍 |                        | 摘心時   |             |   |   |
| カーネーション   |                         | 側芽発生<br>促進                               | 300 倍           | 6 $ml$ /株              | 側芽発生前   | 2 回<br>以内   |   | 2 回以内   |
| こちょうらん  |                         | 着蕾数増加                                    | 1000 倍          | 0.5 $ml$ /<br>花茎       | 発蕾時   | 5 回<br>以内   | 花茎の先端<br>部に噴霧   | 5 回以内   |